

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（いちご [施設]）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ハダニ類に対する、天敵の利用				
実践項目		実践内容	必須/選択	
一般的事項	1	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する	●	
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全親株及び健全苗の確保に努める（※親株は極力毎年更新する）	●	
		雨よけ高設ベンチ育苗を行う	○	
	6	土壌改良及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		十分な耕うんを行う（土耕栽培）	●	
		良質な堆肥を施用する（土耕栽培）	●	
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	9	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
10	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
11	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生抑制のために、マルチを利用する	●	
12	残渣処理	栽培終了後の残渣は、適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的防除	13	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する（土耕栽培）	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
	14	気門封鎖剤の利用	ハダニ類及びコナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	15	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	○
	16	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○
17	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う	○	
生物的防除	18	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する	○
	19	微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類、アブラムシ類及びコナジラミ類等に対して、ホーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○
		チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤の利用を取り入れる	○	
	20	天敵の利用	ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する	●
アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する		○		
21	土着天敵の保護利用	育苗時にアブラムシ類、ハダニ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
化学的防除	22	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	23	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類、ハダニ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ア ブ ラ ム シ 類	ウララDF	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等）
	コルト顆粒水和剤	
	チェス顆粒水和剤	
	ベネビアOD	
ハ ダ ニ 類	カネマイトフロアブル	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカカシラアザミウマ等）
	コロマイト乳剤・水和剤	
	スターマイトフロアブル	
	ダニサラバフロアブル	
	ダニトロンフロアブル	
	テデオン乳剤	
	ニッソラン水和剤	
	バロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
チ ョ ウ 目 害 虫	アタブロン乳剤	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	カウンター乳剤	
	カスケード乳剤	
	トルネードフロアブル トルネードエースDF	
	ノーモルト乳剤	
	ファルコンフロアブル	
	フェニックス顆粒水和剤	
	ブレオフロアブル	
	プレバソンフロアブル	
	ベネビアOD	
	マッチ乳剤	
	マトリックフロアブル	
	モベントフロアブル	
	ロムダンフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【いちご [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策				
②ハダニ類に対する、天敵の利用				
	実践項目	実践内容	必須/選択	実施の有無
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
		IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●		
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●		
耕種的防除	5 健全親株及び苗の確保	健全親株及び健全苗の確保に努める (※親株は極力毎年更新する)	●	
		雨よけ高設ベンチ育苗を行う	○	
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		十分な耕うんを行う（土耕栽培）	●	
		良質な堆肥を施用する（土耕栽培）	●	
	7 排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	9 罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	10 施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
	11 マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
12 残渣処理	栽培終了後の残渣は、適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理的防除	13 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する（土耕栽培）	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
	14 気門封鎖剤の利用	ハダニ類及びコナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	15 防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	○	
	16 光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○	
17 蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う	○		
生物的防除	18 微生物殺菌剤の利用	うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する	○	
	19 微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類、アブラムシ類及びコナジラミ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○	
		チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤の利用を取り入れる	○	
	20 天敵の利用	ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する	●	
アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する		○		
21 土着天敵の保護利用	育苗時にアブラムシ類、ハダニ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●		
化学的防除	22 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	23 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
20	
○の数	○の実施数
12	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【いちご [施設]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ハダニ類に対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的 事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種 的防 除	5	健全親株及び健全苗の確保 ※種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載	●		
		雨よけ高設ベンチ育苗の実施の有無	○		
	6	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●		
		耕うんの実施の有無	●		
		堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●		
	7	排水対策の実施	●		
	8	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	9	罹病植物体等の除去		●	
10	施設内環境の管理		●		
11	マルチの利用		●		
12	残渣処理		●		
物理 的防 除	13	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	14	気門封鎖剤の利用		○	
	15	防虫ネットの利用		○	
	16	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
		蒸し込み		○	
生物 的防 除	18	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	19	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
		利用した場合には資材名を記載	○		
	20	天敵の利用	資材名を記載	●	
		利用した場合には資材名を記載	○		
21	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●		
化学 的防 除	22	土壌処理剤による予防措置		○	
	23	農薬の使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（すいか）

実践のポイント				
①病害及び線虫に対する、接木苗の使用等の耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的 事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生動向を把握する	●
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的 防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6	接木苗の使用	病害及び線虫等の対策のために接木苗を用いる	●
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
	12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病虫害発生の抑制のために、マルチを利用する	●
13	リピングマルチの利用	雑草抑制及び各種害虫の土着天敵の保護のために、畦間にムギ類等を間作する	○	
14	残渣処理	栽培終了後の残渣は、適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的 防除	15	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
16	気門封鎖剤の利用	ハダニ類及びアブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
生物的 防除	17	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病等に対して、ハチルス剤等を利用する	○
	18	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
	19	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●
化学的 防除	20	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	21	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ア ブ ラ ム シ 類	ウララDF	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等)
	コルト顆粒水和剤	
	チェス水和剤・顆粒水和剤	
ア ザ ミ ウ マ 類	アタブロン乳剤	カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 (アカメガシワクダアザミウマ) 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類、カスミカメムシ類)
ハ ダ ニ 類	カネマイトフロアブル	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等) 捕食性アザミウマ (ハダニアザミウマ、アカメガシワクダアザミウマ等)
	コロマイト乳剤・水和剤	
	スターマイトフロアブル	
	ダニトロンフロアブル	
	テデオン乳剤	
	バロックフロアブル	
	マイトコーネフロアブル	
チ ョ ウ 目 害 虫	アタブロン乳剤	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類
	カスケード乳剤	
	フェニックス顆粒水和剤	
	プレバソンフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【すいか】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害及び線虫に対する、接木苗の使用等の耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6	接木苗の使用	病害及び線虫等の対策のために接木苗を用いる	●	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
13	リビングマルチの利用	雑草抑制及び各種害虫の土着天敵の保護のために、畦間にムギ類等を間作する	○		
14	残渣処理	栽培終了後の残渣は、適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理的防除	15	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
16	気門封鎖剤の利用	ハダニ類及びアブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○		
生物的防除	17	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病等に対して、パチルス剤等を利用する	○	
	18	微生物殺虫剤の利用	鱗翅目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
	19	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
化学的防除	20	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	21	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
6	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【すいか】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害及び線虫に対する、接木苗の使用等の耕種の防除を中心とした対策					
②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種の防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	接木苗の使用		●	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	8	排水対策の実施		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には草種を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去		●	
	12	マルチの利用		●	
13	リビングマルチの利用	利用した場合には植物名を記載	○		
14	残渣処理		●		
物理的防除	15	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	16	気門封鎖剤の利用		○	
生物的防除	17	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	18	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	●	
	19	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
化学的防除	20	土壌処理剤による予防措置		○	
	21	農薬の使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（トマト・ミニトマト [施設]）

実践のポイント				
①病害及び線虫に対する、抵抗性・耐病虫性品種等の耕種的防除を中心とした対策 ②コナジラミ類の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除の利用				
実践項目		実践内容	必須/選択	
一般的 事項	1	発生予察	自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的 防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6	接木苗の使用	病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる	●
	7	抵抗性・耐病虫性品種の利用	病害及び線虫等の対策のために、抵抗性又は耐病虫性を有する穂木及び台木を利用する	●
	8	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う（土耕栽培）	●
			良質な堆肥を施用する（土耕栽培）	●
	9	排水対策の実施	排水対策を実施する（土耕栽培）	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
	12	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●
13	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（土耕栽培）	●	
14	残渣処理	栽培終了後の残渣は、適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的 防除	15	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する（土耕栽培）	○
			太陽熱消毒を実施する（土耕栽培）	○
	16	気門封鎖剤の利用	コナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	17	防虫ネットの利用	コナジラミ類の侵入を防ぐために、目合いが0.4mm以下の防虫ネットを設置する	●
	18	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○
	19	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○
20	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う	●	
生物的 防除	21	微生物殺菌剤の利用	灰色かび病及びうどんこ病等に対して、バチルス剤等を利用する	○
	22	微生物殺虫剤の利用	コナジラミ類、アブラムシ類及びアザミウマ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○
			チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○
	23	天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○
ハモグリハエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する			○	
24	土着天敵の保護利用	3月以降のハモグリハエ類に対して、土着の寄生蜂を利用する	○	
化学的 防除	25	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	26	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【トマト・ミニトマト〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①病害及び線虫に対する、抵抗性・耐病虫性品種等の耕種的防除を中心とした対策				
②コナジラミ類の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除の利用				
実践項目	実践内容	必須/選択	実施の有無	
一般的事項	1 発生予察	白らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●		
耕種的防除	5 健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6 接木苗の使用	病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる	●	
	7 抵抗性・耐病虫性品種の利用	病害及び線虫等の対策のために、抵抗性又は耐病虫性を有する種木及び台木を利用する	●	
	8 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		十分な耕うんを行う（土耕栽培）	●	
		良質な堆肥を施用する（土耕栽培）	●	
	9 排水対策の実施	排水対策を実施する（土耕栽培）	●	
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11 罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	12 施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
13 マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（土耕栽培）	●		
14 残渣処理	栽培終了後の残渣は、適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理的防除	15 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する（土耕栽培）	○	
		太陽熱消毒を実施する（土耕栽培）	○	
	16 気門封鎖剤の利用	コナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	17 防虫ネットの利用	コナジラミ類の侵入を防ぐために、目合いが0.4mm以下の防虫ネットを設置する	●	
	18 近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○	
	19 光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○	
20 蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う	●		
生物的防除	21 微生物殺菌剤の利用	灰色かび病及びうどんこ病等に対して、バチルス剤等を利用する	○	
	22 微生物殺虫剤の利用	コナジラミ類、アブラムシ類及びアザミウマ類等に対して、ホーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○	
		チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○	
	23 天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○	
ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する		○		
24 土着天敵の保護利用	3月以降のハモグリバエ類に対して、土着の寄生蜂を利用する	○		
化学的防除	25 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	26 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
	散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●		

※●は必須項目、○は選択項目

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
22	
○の数	○の実施数
12	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【トマト・ミニトマト [施設]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害及び線虫に対する、抵抗性・耐病虫性品種等の耕種的防除を中心とした対策					
②コナジラミ類の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策	/	●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理	/	●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	接木苗の使用	/	●	
	7	抵抗性・耐病虫性品種の利用	栽培に供した品種を記載	●	
	8	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
	9		耕うんの実施の有無	●	
	9	排水対策の実施	/	●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去	/	●	
	12	施設内環境の管理	/	●	
	13	マルチの利用	/	●	
14	残渣処理	/	●		
物理的防除	15	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	16	気門封鎖剤の利用	/	○	
	17	防虫ネットの利用	/	●	
	18	近紫外線除去フィルムの利用	/	○	
	19	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	20	蒸し込み	/	●	
生物的防除	21	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	22	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	23		利用した場合には資材名を記載	○	
	23	天敵の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	24	土着天敵の保護利用	利用した場合には資材名を記載	○	
化学的防除	25	土壌処理剤による予防措置	/	○	
	26	農薬の使用全般	/	●	
26	/		●		
26	/		●		

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（にがうり [施設]）

実践のポイント				
①線虫に対する、耕種的防除及び物理的防除の利用 ②アブラムシ類の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための物理的防除の利用				
実践項目		実践内容	必須/選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6	接木苗の使用	病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる	●
	7	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	☆
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
	12	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●
13	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
14	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的防除	15	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	☆
			太陽熱消毒を実施する	☆
	16	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	17	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●
	18	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○
19	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○	
20	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるために、栽培終了後に蒸し込みを行う	●	
生物的防除	21	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病等に対して、バチルス剤等を利用する	○
	22	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○
	23	天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○
化学的防除	24	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	25	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目9又は15の耕種的防除又は物理的防除のいずれか一つを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【にがうり [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①線虫に対する、耕種的防除及び物理的防除の利用					
②アブラムシ類の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための物理的防除の利用					
実践項目		実践内容	必須/選択	実施の有無	
一般的 事項	1	発生予察	自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的 防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6	接木苗の使用	病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる	●	
	7	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	☆	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	12	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
13	マルチの利用	肥料と土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●		
14	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理的 防除	15	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	☆	
			太陽熱消毒を実施する	☆	
	16	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	17	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●	
	18	近紫外線除去フィルム の利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○	
	19	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○	
20	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるために、栽培終了後に蒸し込みを行う	●		
生物的 防除	21	微生物殺菌剤 の利用	うどんこ病等に対して、バチルス剤等を利用する	○	
	22	微生物殺虫剤 の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○	
	23	天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○	
化学的 防除	24	土壌処理剤による 予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	25	農薬の 使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●		

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目9又は15の耕種的防除又は物理的防除のいずれか一つを必ず実施する
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の 実施数
21	
○の数	○の 実施数
7	
☆の数	☆の 実施数
3	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【にがうり [施設]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①線虫に対する、耕種的防除及び物理的防除の利用					
②アブラムシ類の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための物理的防除の利用					
実践項目		実践内容	必須/選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	接木苗の使用		●	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断は場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	8	排水対策の実施		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	☆	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去		●	
	12	施設内環境の管理		●	
13	マルチの利用		●		
14	残渣処理		●		
物理的防除	15	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	☆	
	16	気門封鎖剤の利用		○	
	17	防虫ネットの利用		●	
	18	近紫外線除去 フィルムの利用		○	
	19	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	20	蒸し込み		●	
生物的防除	21	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	22	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	23	天敵の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
化学的防除	24	土壌処理剤による 予防措置		○	
	25	農薬の 使用全般		●	
			●		
			●		

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目9又は15の耕種的防除又は物理的防除のいずれかを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（にがうり [露地]）

実践のポイント			
①線虫に対する、耕種的防除及び物理的防除の利用			
②アブラムシ類の侵入防止及び増殖抑制対策のための物理的防除の利用			
③ハダニ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6 接木苗の使用	病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる	●
	7 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		十分な耕うんを行う	●
		良質な堆肥を施用する	●
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9 輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	☆
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11 罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
12 マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（※実践項目17の実施で条件を満たす）	●	
13 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的防除	14 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	☆
		太陽熱消毒を実施する	☆
	15 気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	16 障壁の設置	アブラムシ類等の侵入防止を図るために、ほ場の周囲にソルゴーを栽培するか、又は防風ネットを設置し、防風対策と併せて障壁として利用する	●
17 光反射資材の利用	アブラムシ類等の侵入と定着を防ぐために、光反射性のマルチを利用する	○	
生物的防除	18 微生物殺菌剤の利用	うどんこ病等に対して、バチルス剤等を利用する	○
	19 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
	20 土着天敵の保護利用	ハダニ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●
化学的防除	21 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	22 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目9又は14の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

付表1 ハダニ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ハダニ類	ダニトロンフロアブル	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等)
	ニッソラン水和剤	捕食性アザミウマ (ハダニアザミウマ, アカガシワダアザミウマ等)
チョウ目害虫	カスケード乳剤	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【にがうり〔露地〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①線虫に対する、耕種防除及び物理的防除の利用					
②アブラムシ類の侵入防止及び増殖抑制対策のための物理的防除の利用					
③ハダニ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●	
			病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●		
耕種防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6	接木苗の使用	病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる	●	
	7	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	☆	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病虫害発生の抑制のために、マルチを利用する（※実践項目17の実施で条件を満たす）	●		
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	☆	
			太陽熱消毒を実施する	☆	
	15	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	16	障壁の設置	アブラムシ類等の侵入防止を図るために、ほ場の周囲にソルゴーを栽培するか、又は防風ネットを設置し、防風対策と併せて障壁として利用する	●	
17	光反射資材の利用	アブラムシ類等の侵入と定着を防ぐために、光反射性のマルチを利用する	○		
生物的防除	18	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病等に対して、バチルス剤等を利用する	○	
	19	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
	20	土着天敵の保護利用	ハダニ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
化学的防除	21	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	22	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目9又は14の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む

実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
4	
☆の数	☆の実施数
3	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【にがうり [露地]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①線虫に対する、耕種的防除及び物理的防除の利用					
②アブラムシ類の侵入防止及び増殖抑制対策のための物理的防除の利用					
③ハダニ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	接木苗の使用		●	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	8	排水対策の実施		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	☆	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去		●	
12	マルチの利用		●		
13	残渣処理		●		
物理的防除	14	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	☆	
	15	気門封鎖剤の利用		○	
	16	障壁の設置	利用した資材名を記載	●	
	17	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
生物的防除	18	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	19	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
	20	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
化学的防除	21	土壌処理剤による予防措置		○	
	22	農薬の使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目9又は14の物理的防除又は生物的防除のいずれかを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（ピーマン [施設]）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用				
実践項目		実践内容	必須/選択	
一般的事項	1	発生予察	<p>自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する</p> <p>病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する</p>	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6	接木苗の使用	病害対策のために、接木苗を用いる	○
	7	抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	●
	8	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	9	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
12	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる（参考：p97）	●	
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
	15	気門封鎖剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	16	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●
	17	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○
18	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○	
19	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う	●	
生物的防除	20	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する	○
	21	微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○
			チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○
	22	天敵の利用	アザミウマ類及びコナジラミ類等に対して、スルスキーカブリダニを利用する	●
			アザミウマ類に対して、タイリクヒメハナカメムシを利用する	○
			アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○
23	土着天敵の利用	アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、タバコカスミカメを利用する	○	
		ジャガイモヒゲナガアブラムシ等に対して、ギフアブラバチを利用する	○	
化学的防除	24	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	25	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ピーマン（施設）】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
		実践項目	実践内容	必須／選択	実施の有無
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用					
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6	接木苗の使用	病害対策のために、接木苗を用いる	○	
	7	抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	●	
	8	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	9	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
12	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●		
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる（参考：p97）	●		
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
	15	気門封鎖剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	16	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●	
	17	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○	
18	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○		
19	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う	●		
生物的防除	20	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する	○	
	21	微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ホーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○	
			チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○	
	22	天敵の利用	アザミウマ類及びコナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する	●	
			アザミウマ類に対して、タイリクヒメハナカメムシを利用する	○	
アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する			○		
23	土着天敵の利用	アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、タバコカスミカメを利用する	○		
		ジャガイモヒゲナガアブラムシ等に対して、ギフアブラバチを利用する	○		
24	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○		
		病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●		
25	農薬の使用全般	農薬の飛散防止対策に努める	●		
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●		

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
15	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ピーマン〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策				
②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●
	2	侵入病害虫対策		●
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●
	4	記帳管理		●
耕種的防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●
	6	接木苗の使用		○
	7	抵抗性・耐病性品種の利用	栽培に供した品種を記載	●
	8	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●
			耕うんの実施の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●
	9	排水対策の実施		●
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●
	11	罹病植物体等の除去		●
	12	施設内環境の管理		●
13	残渣処理		●	
物理的防除	14	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○
	15	気門封鎖剤の利用		○
	16	防虫ネットの利用		●
	17	近紫外線除去フィルムの利用		○
	18	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○
19	蒸し込み		●	
生物的防除	20	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○
	21	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○
			利用した場合には資材名を記載	○
	22	天敵の利用	利用した資材名を記載	●
			利用した場合には資材名を記載	○
利用した場合には資材名を記載			○	
利用した場合には資材名を記載			○	
23	土着天敵の利用		○	
化学的防除	24	土壌処理剤による予防措置		○
	25	農薬の使用全般		●
			●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（きゅうり [施設]）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	<p>自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する</p> <p>病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する</p>	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6	接木苗の使用	病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる	●
	7	抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	●
	8	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	9	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
	12	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●
13	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
14	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的防除	15	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
	16	気門封鎖剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	17	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●
	18	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○
	19	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○
20	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う	●	
生物的防除	21	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する	○
	22	微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○
			チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○
	23	天敵の利用	アザミウマ類及びコナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する	●
			アザミウマ類に対して、タイリクヒメハナカメムシを利用する	○
			アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○
ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する			○	
23	天敵の利用	ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する	○	
化学的防除	24	土壌処理剤による予防措置	農業飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	25	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【きゅうり [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須/選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6	接木苗の使用	病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる	●	
	7	抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	●	
	8	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	9	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	12	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
13	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●		
14	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理的防除	15	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
	16	気門封鎖剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	17	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●	
	18	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○	
	19	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○	
20	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う	●		
生物的防除	21	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する	○	
	22	微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○	
			チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○	
	23	天敵の利用	アザミウマ類及びコナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する	●	
			アザミウマ類に対して、タイリクヒメハナカメムシを利用する	○	
アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する			○		
		ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する	○		
		ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する	○		
化学的防除	24	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	25	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
農薬の飛散防止対策に努める			●		
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●		

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
23	
○の数	○の実施数
13	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【きゅうり〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策				
②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●
	2	侵入病害虫対策		●
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●
	4	記帳管理		●
耕種的防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●
	6	接木苗の使用		●
	7	抵抗性・耐病性品種の利用	栽培に供した品種を記載	●
	8	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 耕うんの実施の有無	●
	9	排水対策の実施		●
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には草種を記載	●
	11	罹病植物体等の除去		●
	12	施設内環境の管理		●
	13	マルチの利用		●
	14	残渣処理		●
物理的防除	15	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○
	16	気門封鎖剤の利用		○
	17	防虫ネットの利用		●
	18	近紫外線除去フィルムの利用		○
	19	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○
20	蒸し込み		●	
生物的防除	21	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○
	22	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○
	23	天敵の利用	利用した資材名を記載	●
			利用した場合には資材名を記載	○
			利用した場合には資材名を記載	○
利用した場合には資材名を記載			○	
化学的防除	24	土壌処理剤による予防措置		○
	25	農薬の使用全般		●

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（なす [施設]）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用				
実践項目		実践内容	必須/選択	
一般的 事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的 防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6	接木苗の使用	病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる	●
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	10	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
	11	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●
12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的 防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
	15	気門封鎖剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	16	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●
17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○	
18	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う	●	
生物的 防除	19	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する	○
	20	微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○
			チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○
	21	天敵の利用	アザミウマ類及びコナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する	☆
			アザミウマ類に対して、タイリクヒメハナカメムシを利用する	○
アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する			○	
ハダニ類に対して、カブリダニ類等の天敵を利用する			○	
		ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する	○	
22	土着天敵の利用	アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、タバコカスミカメを利用する	☆	
化学的 防除	23	土壌処理剤による予防措置	農業飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	24	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目21（スワルスキーカブリダニ）又は22の生物的防除のいずれかを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（なす〔施設〕）（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須/選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6	接木苗の使用	病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる	●	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	10	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	11	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
	12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
	15	気門封鎖剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	16	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●	
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○	
18	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う	●		
生物的防除	19	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ホーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○	
			チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○	
	21	天敵の利用	アザミウマ類及びコナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する	☆	
			アザミウマ類に対して、タイリクヒメハナカメムシを利用する	○	
アブラムシ類に対して、アブラハチ等の天敵を利用する			○		
ハダニ類に対して、カブリダニ類等の天敵を利用する			○		
22	土着天敵の利用	アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、タバコカスミカメを利用する	☆		
化学的防除	23	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	24	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●		

※●は必須項目、○は選択項目
☆は実践項目21（スワルスキーカブリダニ）又は22の生物的防除のいずれかを必ず実施する
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
12	
☆の数	☆の実施数
2	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（なす〔施設〕）（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用					
実践項目		実践内容	必須/選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	接木苗の使用		●	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	8	排水対策の実施		●	
	9	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には草種を記載	●	
	10	罹病植物体等の除去		●	
	11	施設内環境の管理		●	
12	マルチの利用		●		
13	残渣処理		●		
物理的防除	14	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	15	気門封鎖剤の利用		○	
	16	防虫ネットの利用		●	
	17	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	18	蒸し込み		●	
生物的防除	19	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
			利用した場合には資材名を記載	○	
	21	天敵の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	}
			利用した場合には資材名を記載	○	
			利用した場合には資材名を記載	○	
利用した場合には資材名を記載			○		
22	土着天敵の利用	利用した場合には天敵の種類を記載	☆		
化学的防除	23	土壌処理剤による予防措置		○	
	24	農薬の使用全般		●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目
 ☆は実践項目21（スワルスキーカブリダニ）又は22の生物的防除のいずれかを必ず実施する
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（オクラ）

実践のポイント				
①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する	●	
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
15	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
生物的防除	16	交信かく乱剤の利用	チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する	○
	17	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
	18	土着天敵の保護利用	アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●
アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす）			●	
化学的防除	19	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	20	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ア ブ ラ ム シ 類	コルト顆粒水和剤	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類, タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等)
	チェス顆粒水和剤	
チ ョ ウ 目 害 虫	アタブロン乳剤	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類
	フェニックス顆粒水和剤	
	プレオフロアブル	
	プレバソンフロアブル	
	マトリックフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【オクラ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●		
耕種的防除	5 健全種子の使用	健全種子を用いる	●	
	6 土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		十分な耕うんを行う	●	
		良質な堆肥を施用する	●	
	7 排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8 防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	9 輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●	
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11 罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
12 マルチの利用	肥料と土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●		
13 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する	●		
物理的防除	14 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
15 気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○		
生物的防除	16 交信かく乱剤の利用	チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する	○	
	17 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
	18 土着天敵の保護利用	アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす）		●		
化学的防除	19 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	20 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
22	
○の数	○の実施数
5	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【オクラ】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施		●	
	8	防風対策		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去		●	
12	マルチの利用		●		
物理的防除	14	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	15	気門封鎖剤の利用		○	
生物的防除	16	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	17	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
	18	土着天敵の保護利用	選択的農業以外を使用した場合には、農業名とそれを使用した理由を記載	●	
利用した植物名を記載			●		
化学的防除	19	土壌処理剤による予防措置		○	
	20	農薬の使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（かぼちゃ）

実践のポイント				
①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	防風対策	障壁植物等により、防風対策を実施する	●
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
	12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む	●	
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
	15	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
16	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネット等で被覆する （※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす）	○	
生物的防除	17	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病等に対して、バチルス剤を利用する	○
	18	微生物殺虫剤の利用	コナジラミ類に対して、ボーベリア剤を利用する	○
			チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
19	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する （※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす）	●	
化学的防除	20	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種または定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	21	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
アブラムシ類	コルト顆粒水和剤	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類, タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等)
チョウ目害虫	ベネビアOD	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類
ハモグリバエ類	カスケード乳剤	寄生蜂 クモ類
	トリガード液剤	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【かぼちゃ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8	防風対策	障壁植物等により、防風対策を実施する	●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む	●		
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
	15	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
16	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネット等で被覆する	○		
生物的防除	17	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病等に対して、バチルス剤を利用する	○	
	18	微生物殺虫剤の利用	コナジラミ類に対して、ボーマリア剤を利用する	○	
			チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
19	土着天敵の保護利用	各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる	●		
		アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす）	●		
化学的防除	20	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種または定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	21	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
22	
○の数	○の実施数
7	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【かぼちゃ】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害及び線虫に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施		●	
	8	防風対策		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去		●	
	12	マルチの利用		●	
13	残渣処理		●		
物理的防除	14	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	15	気門封鎖剤の利用		○	
	16	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネット等で被覆する	○	
生物的防除	17	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	18	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
			利用した資材名を記載	●	
19	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●		
		利用した植物名を記載	●		
化学的防除	20	土壌処理剤による予防措置		○	
	21	農薬の使用全般		●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 I P M実践指標（ごぼう）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	I P Mの情報収集	I P Mに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、I P Mの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を使用する	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策	排水対策を実施する	●
	8	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	○
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
10	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	○	
	11	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●
物理的防除	12	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
生物的防除	13	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、B T剤の利用を取り入れる	●
化学的防除	14	土壌処理剤による 予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	●
	15	農薬の 使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ごぼう】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を使用する	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	7	排水対策	排水対策を実施する	●	
	8	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	○	
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
10	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	○		
	11	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的防除	12	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
生物的防除	13	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
化学的防除	14	土壌処理剤による 予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	●	
	15	農薬の 使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残渣やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
17	
○の数	○の実施数
4	

鹿児島県 IPM 実践指標【ごぼう】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
	7	排水対策		●	
	8	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	○	
	9	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	10	マルチの利用		○	
11	残渣処理		●		
物理的防除	12	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
生物的防除	13	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
化学的防除	14	土壌処理剤による 予防措置		●	
	15	農薬の 使用全般		●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（さといも）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策				
②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種いもを用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	○
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	10	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
11	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	○	
	12	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●
物理的防除	13	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
	14	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
生物的防除	15	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
	16	土着天敵の保護利用	チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●
化学的防除	17	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、植付前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	18	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 チョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
チョウ目害虫	アクセルフロアブル	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類
	トルネードエースDF	
	フェニックス顆粒水和剤	
	プレオフロアブル	
	プレバソンフロアブル	
	マトリックフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県 IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【さといも】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的 事項	1	発生予察	自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●		
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●		
耕種 的 防 除	5	健全種苗の使用	健全種いもを用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	○	
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	10	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
11	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	○		
12	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理 的 防 除	13	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
14	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○		
生物 的 防 除	15	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
	16	土着天敵の保護利用	チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●	
化学 的 防 除	17	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、植付前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	18	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の 実施数
18	
○の数	○の 実施数
6	

鹿児島県 IPM 実践指標【さといも】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施		●	
	8	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	9	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	10	罹病植物体等の除去		●	
11	マルチの利用		○		
12	残渣処理		●		
物理的防除	13	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	14	気門封鎖剤の利用		○	
生物的防除	15	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
	16	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
化学的防除	17	土壌処理剤による予防措置		○	
	18	農薬の使用全般		●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（しょうが）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策				
②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する	○
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	○
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
12	敷わらの利用	雑草抑制や病害予防のために、敷わら等を利用する	●	
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる（参考：p97）	●	
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
生物的防除	15	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
	16	土着天敵の保護利用	チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●
化学的防除	17	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、植付前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	18	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 チョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
チョウ目害虫	アクセルフロアブル	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	トルネードエースDF	
	ノーモルト乳剤	
	フェニックス顆粒水和剤	
	プレバソンフロアブル	
	マトリックフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【しょうが】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8	防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する	○	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	○	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
12	敷わらの利用	雑草抑制や病害予防のために、敷わら等を利用する	●		
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる（参考：p97）	●		
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
生物的防除	15	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
	16	土着天敵の保護利用	チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●	
化学的防除	17	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、植付前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	18	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
19	
○の数	○の実施数
5	

鹿児島県 IPM 実践指標【しょうが】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施		●	
	8	防風対策		○	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	○	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去		●	
12	敷わらの利用		●		
13	残渣処理		●		
物理的防除	14	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
生物的防除	15	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
	16	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
化学的防除	17	土壌処理剤による予防措置		○	
	18	農薬の使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（だいこん）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策				
②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	○
	7	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	○
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	○	
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる（参考：p97）	●	
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
	15	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
生物的防除	16	微生物殺菌剤の利用	軟腐病、菌核病に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する	○
	17	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
	18	土着天敵の保護利用	チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●
化学的防除	19	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	20	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 チョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
チョウ目害虫	アクセルフロアブル	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	アタブロン乳剤	
	カスケード乳剤	
	トルネードエースDF	
	ノーモルト乳剤	
	ファルコンフロアブル	
	フェニックス顆粒水和剤	
	プレオフロアブル	
	プレバソソフロアブル	
	ベネビアOD	
	マッチ乳剤	
	マトリックフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県 IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【だいこん】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●	
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	○	
	7	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	○	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	○		
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる（参考：p97）	●		
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
15	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○		
生物的防除	16	微生物殺菌剤の利用	軟腐病、菌核病に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する	○	
	17	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
	18	土着天敵の保護利用	チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
化学的防除	19	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	20	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
18	
○の数	○の実施数
8	

鹿児島県 IPM 実践指標【だいこん】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	栽培に供した品種を記載	○	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	8	排水対策の実施		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	○	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去		●	
	12	マルチの利用		○	
13	残渣処理		●		
物理的防除	14	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	15	気門封鎖剤の利用		○	
生物的防除	16	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	17	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
	18	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
化学的防除	19	土壌処理剤による予防措置		○	
	20	農薬の使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（にんじん）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	○
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	10	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
11	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	○	
	12	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●
物理的防除	13	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
	14	夏季の湛水処理	夏季に湛水を実施する	○
	15	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
生物的防除	16	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
化学的防除	17	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	18	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【にんじん】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的 事項	1	発生予察	自らは場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的 防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	○
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
10	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
	11	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	○
	12	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●
物理的 防除	13	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
	14	夏季の湛水処理	夏季に湛水を実施する	○
	15	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
生物的 防除	16	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
化学的 防除	17	土壌処理剤による 予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	18	農薬の 使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の 実施数
17	
○の数	○の 実施数
7	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【にんじん】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的 事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的 防除	5	健全種子の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施		●	
	8	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	○	
	9	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	10	罹病植物体等 の除去		●	
11	マルチの利用		○		
12	残渣処理		●		
物理的 防除	13	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの 方法を記載	○	
	14	夏季の湛水処理		○	
	15	気門封鎖剤の利用		○	
生物的 防除	16	微生物殺虫剤 の利用	利用した資材名を記載	●	
化学的 防除	17	土壌処理剤による 予防措置		○	
	18	農薬の 使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（ばれいしょ）

実践のポイント			
①病害対策のための健全種苗の使用 ②病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ③アブラムシ類によるウイルス媒介を防ぐための予防及び土着天敵の保護利用			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全種苗の使用	健全無病な優良種苗を使用するため、植物防疫法に基づく種ばれいしょの検査に合格したもの、または鹿児島県ばれいしょ原種ほ等設置要領に基づいて生産された種いもを用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		十分な耕うんを行う	●
		良質な堆肥を施用する	●
	7 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8 防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する	○
	9 輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11 罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
12 マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	○	
13 残渣処理	栽培終了後の残渣及びほ場内に残ったいもは、ほ場外に持ち出す等次作に影響がないよう適切に処分する（参考：p97）	●	
物理的防除	14 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
		太陽熱消毒を実施する	○
生物的防除	15 米ぬかの使用	そうか病の発生防止対策のために、米ぬか等を利用する	○
	16 土着天敵の保護利用	アブラムシ類に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●
化学的防除	17 疫病対策	気温の変化と植物の生育ステージに応じて予防主体の防除を実施する	●
		産地毎に設定されている、疫病対策農薬のローテーション散布を実施する	●
	18 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
農薬の飛散防止対策に努める		●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ア ブ ラ ム シ 類	ウララDF	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類，タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類，オオメカメムシ類等）
	コルト顆粒水和剤	
	チェス顆粒水和剤	
	ベネビアOD	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので，詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら，影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ばれいしょ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害対策のための健全種苗の使用 ②病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ③アブラムシ類によるウイルス媒介を防ぐための予防及び土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全無病な優良種苗を使用するため、植物防疫法に基づく種ばれいしょの検査に合格したもの、または鹿児島県ばれいしょ原種ほ等設置要領に基づいて生産された種いもを用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8	防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する	○	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害やセンチュウ対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	○		
	13	残渣処理	栽培終了後の残渣及びほ場内に残ったいもは、ほ場外に持ち出す等次作に影響がないよう適切に処分する（参考：p97）	●	
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
生物的防除	15	米ぬかの使用	そうか病の発生防止対策のために、米ぬか等を利用する	○	
	16	土着天敵の保護利用	アブラムシ類に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●	
化学的防除	17	疫病対策	気温の変化と植物の生育ステージに応じて予防主体の防除を実施する	●	
			産地毎に設定されている、疫病対策農薬のローテーション散布を実施する	●	
	18	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
農薬の飛散防止対策に努める			●		
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残渣やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
20	
○の数	○の実施数
5	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ばれいしょ】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害対策のための健全種苗の使用 ②病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ③アブラムシ類によるウイルス媒介を防ぐための予防及び土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した購入年月日と購入先を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施		●	
	8	防風対策		○	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去		●	
12	マルチの利用		○		
物理的防除	13	残渣処理		●	
	14	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
生物的防除	15	米ぬかの使用	利用した場合には資材名を記載	○	
	16	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
化学的防除	17	疫病対策		●	
				●	
	18	農薬の使用全般		●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（さつまいも）

実践のポイント				
①病害対策のための健全苗及び種いもの使用 ②土着天敵の保護利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全苗及び種いもを使用する	●
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	病害の対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する（参考：付表1）	○
	7	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周田の雑草管理対策を実施する	●
	11	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
13	残渣処理	栽培終了後の残渣及びほ場内に残ったいもは、ほ場外に持ち出す等次作に影響がないよう適切に処分する（参考：p97）	●	
物理的防除	14	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
15	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類、ハダニ類及びコナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
生物的防除	16	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○
	17	土着天敵の保護利用	チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表2）	●
化学的防除	18	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	●
	19	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 鹿児島県のさつまいも奨励品種における抵抗性又は耐病虫性の目安

品種名	黒斑病	帯状粗皮病	かいよう病	ネコブ センチュウ	ネグサレ センチュウ
コガネセガン	弱	やや強	やや強	やや弱	弱
高系14号 (ベニサツマ)	弱	弱	弱	やや弱	強
ベにはるか	中	やや弱	やや弱	強	やや強

注) 「農作物奨励品種特性表」(平成27年3月 鹿児島県, 鹿児島県米・麦・大豆等生産対策協議会発行)より引用

付表2 チョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
チョウ目害虫	アクセルフロアブル	寄生蜂 ゴミムシ類 捕食性カメムシ類 (ハリクチプトカメムシ類)
	アタブロン乳剤	
	カスケード乳剤	
	トルネードエースDF	
	ノーモルト乳剤	
	ファルコンフロアブル	
	フェニックス顆粒水和剤	
	プレオフロアブル	
	ベネビアOD	
	マッチ乳剤	
	マトリックフロアブル	
	ロムダンフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【さつまいも】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害対策のための健全苗及び種いもの使用 ②土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗及び種いもを使用する	●	
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	病害の対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する（参考：付表1）	○	
	7	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●		
13	残渣処理	栽培終了後の残渣及びほ場内に残ったいもは、ほ場外に持ち出す等次作に影響がないよう適切に処分する（参考：p97）	●		
物理的防除	14	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○		
		太陽熱消毒を実施する	○		
15	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類、ハダニ類及びコナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○		
生物的防除	16	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○	
	17	土着天敵の保護利用	チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表2）	●	
化学的防除	18	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	●	
	19	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残渣液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●		

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
20	
○の数	○の実施数
5	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【さつまいも】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害対策のための健全苗及び種いもの使用 ②土着天敵の保護利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	栽培に供した品種を記載	○	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	8	排水対策の実施		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去		●	
12	マルチの利用		●		
13	残渣処理		●		
物理的防除	14	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	15	気門封鎖剤の利用		○	
生物的防除	16	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	17	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
化学的防除	18	土壌処理剤による予防措置		●	
	19	農薬の使用全般		●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（アスパラガス〔施設〕）

実践のポイント			
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		十分な耕うんを行う	●
		良質な堆肥を施用する	●
	7 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	8 罹病植物体等の除去	発病した茎葉及び整枝後の残渣等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
9 施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
10 残渣処理	栽培終了後は、茎葉を地際部より短く刈り取り、ほ場外に持ち出し処分する	●	
物理的防除	11 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
		太陽熱消毒を実施する	○
	12 気門封鎖剤の利用	コナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	13 防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●
	14 近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○
	15 光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○
16 黄色灯の利用	ハスモンヨトウに対して、黄色灯を利用する	☆	
生物的防除	17 交信かく乱剤の利用	ハスモンヨトウに対して、交信かく乱剤を利用する	☆
	18 微生物殺虫剤の利用	ハスモンヨトウに対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤の利用を取り入れる	☆
		アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤を利用する	○
19 天敵の利用	アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、スワルスキーカブリダニを利用する	○	
化学的防除	20 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	21 農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれかを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【アスパラガス〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用				
実践項目	実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●	
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2 侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		十分な耕うんを行う	●	
		良質な堆肥を施用する	●	
	7 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	8 罹病植物体等の除去	発病した茎葉及び整枝後の残渣等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
9 施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●		
	10 残渣処理	栽培終了後は、茎葉を地際部より短く刈り取り、ほ場外に持ち出し処分する	●	
物理的防除	11 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
	12 気門封鎖剤の利用	コナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	13 防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●	
	14 近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○	
	15 光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○	
	16 黄色灯の利用	ハスモンヨトウに対して、黄色灯を利用する	☆	
生物的防除	17 交信かく乱剤の利用	ハスモンヨトウに対して、交信かく乱剤を利用する	☆	
	18 微生物殺虫剤の利用	ハスモンヨトウに対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤の利用を取り入れる	☆	
		アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤を利用する	○	
19 天敵の利用	アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、スワルスキーカブリダニを利用する	○		
化学的防除	20 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	21 農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれかを必ず実施する

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む

実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
17	
○の数	○の実施数
8	
☆の数	☆の実施数
3	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【アスパラガス〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策				
②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的 事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●
	2	侵入病害虫対策		●
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●
	4	記帳管理		●
耕種的 防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●
			耕うんの実施の有無	●
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●
	7	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●
	8	罹病植物体等の除去		●
9	施設内環境の管理		●	
10	残渣処理		●	
物理的 防除	11	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○
	12	気門封鎖剤の利用		○
	13	防虫ネットの利用		●
	14	近紫外線除去フィルムの利用		○
	15	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○
	16	黄色灯の利用		☆
生物的 防除	17	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	☆
	18	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	☆
			利用した場合には資材名を記載	○
19	天敵の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
化学的 防除	20	土壌処理剤による予防措置		○
	21	農薬の使用全般		●
			●	
			●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれかを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

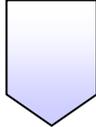
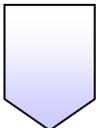
鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（たまねぎ）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ネギハモグリバエ及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		発生予察	病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	10	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
11	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
物理的防除	13	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
生物的防除	14	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
	15	土着天敵の保護利用	ネギハモグリバエの土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にアブラナ科又はハゼリソウ科の植物を植栽する（参考：付表1）	○
化学的防除	16	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	15	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 ネギハモグリバエの土着天敵を誘引及び定着させる植栽管理のイメージ

時期	作業
9月	<p>● たまねぎの栽培ほ場周辺にアブラナ科植物（菜の花など）を播種</p>  <p>ナモグリバエがアブラナ科植物で発生</p>
10月上中旬	<p>ナモグリバエに土着の寄生蜂が寄生</p> 
10月下旬～11月	<p>● たまねぎ定植</p>  <p>たまねぎでネギハモグリバエが発生するとアブラナ科植物から土着の寄生蜂だけが移動してくる</p>

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【たまねぎ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ネギハモグリバエ及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	10	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
11	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
物理的防除	13	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
生物的防除	14	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
	15	土着天敵の保護利用	ネギハモグリバエの土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にアブラナ科又はハゼリソウ科の植物を植栽する（参考：付表1）	○
化学的防除	16	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	15	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
19	
○の数	○の実施数
4	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【たまねぎ】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ネギハモグリバエ及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的 事項	1	発生予察 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策	●	
	3	IPMの情報収集 参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理	●	
耕種的 防除	5	健全種苗の使用 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 耕うんの実施の有無	●	
		堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施	●	
	8	輪作の実施 緑肥作物の利用 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	9	雑草管理 カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	10	罹病植物体等の除去	●	
	11	マルチの利用	●	
12	残渣処理	●		
物理的 防除	13	土壌消毒 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
生物的 防除	14	微生物殺虫剤の利用 利用した資材名を記載	●	
	15	土着天敵の保護利用 利用した場合には植物名を記載	○	
化学的 防除	16	土壌処理剤による予防措置	○	
	15	農薬の使用全般	●	
				●

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（らっきょう）

実践のポイント			
①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②健全種球の確保			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5 健全種球の使用	健全種球を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		十分な耕うんを行う	●
		良質な堆肥を施用する	●
	7 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8 防風対策	障壁植物や防風ネット等により防風対策を実施する	○
	9 輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
11 罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
	12 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む	●
物理的防除	13 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
		太陽熱消毒を実施する	○
	14 温湯消毒の実施	ネダ二類等の対策として種球の温湯消毒を実施する	○
化学的防除	15 土壌処理剤による 予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、植付前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	16 農薬の 使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【らっきょう】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②健全種球の確保				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種球の使用	健全種球を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	防風対策	障壁植物や防風ネット等により防風対策を実施する	○
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
11	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
12	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む	●	
物理的防除	13	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
14	温湯消毒の実施	ネダニ類等の対策として種球の温湯消毒を実施する	○	
化学的防除	15	土壌処理剤による 予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、植付前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	16	農薬の 使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の 実施数
17	
○の数	○の 実施数
5	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【らっきょう】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②健全種球の確保				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1	発生予察 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策	●	
	3	IPMの情報収集 参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理	●	
耕種的防除	5	健全種球の使用 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
		耕うんの実施の有無	●	
		堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施	●	
	8	防風対策	○	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理 カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載	●	
11	罹病植物体等の除去	●		
12	残渣処理	●		
物理的防除	13	土壌消毒 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	14	温湯消毒の実施	○	
化学的防除	15	土壌処理剤による予防措置	○	
	16	農薬の使用全般	●	
				●

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（レタス）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	○
	7	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
	12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●
13	リビングマルチ	雑草抑制及び各種害虫の土着天敵の保護のために、畦間にムギ類を間作する	○	
14	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的防除	15	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
生物的防除	16	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤の利用を取り入れる	●
	17	土着天敵の保護利用	アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●
化学的防除	18	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	19	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ア ブ ラ ム シ 類	ウララDF	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類, タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等)
	コルト顆粒水和剤	
	ベネビアOD	
チ ョ ウ 目 害 虫	アクセルフロアブル	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類
	アタブロン乳剤	
	カウンター乳剤	
	カスケード乳剤	
	トルネードエースDF	
	ノーモルト乳剤	
	ファルコンフロアブル	
	フェニックス顆粒水和剤	
	プレオフロアブル	
	プレバソンフロアブル	
	ベネビアOD	
	マッチ乳剤	
	マトリックフロアブル	
	ロムダンフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【レタス】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	○	
	7	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
	12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
13	リビングマルチ	雑草抑制及び各種害虫の土着天敵の保護のために、畦間にムギ類を間作する	○		
14	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理的防除	15	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
生物的防除	16	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤の利用を取り入れる	●	
	17	土着天敵の保護利用	アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
化学的防除	18	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	19	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
20	
○の数	○の実施数
5	

鹿児島県 IPM 実践指標【レタス】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②アブラムシ類及びビョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	栽培に供した品種を記載	○	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	8	排水対策の実施		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去		●	
	12	マルチの利用		●	
13	リビングマルチ	利用した場合には植物名を記載	○		
14	残渣処理		●		
物理的防除	15	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
生物的防除	16	微生物殺虫剤の利用	利用した資材名を記載	●	
	17	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
化学的防除	18	土壌処理剤による予防措置		○	
	19	農薬の使用全般		●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

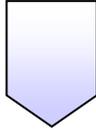
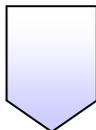
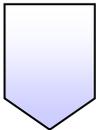
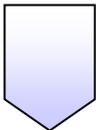
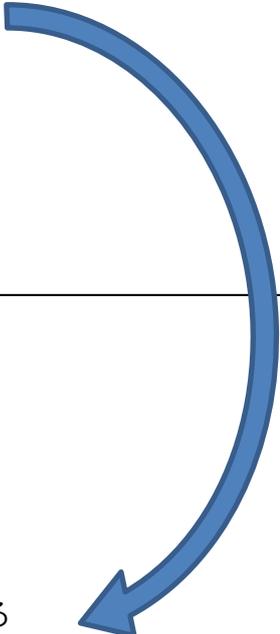
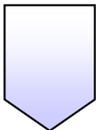
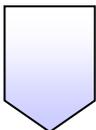
鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（根深ねぎ）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策				
②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が発表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種の防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	○
	7	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	○
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
11	罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
12	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的防除	13	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
		太陽熱消毒を実施する	○	
14	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
生物的防除	15	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
	16	土着天敵の保護利用	ネギハモグリハエの土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にアブラナ科又はハゼリソウ科の植物を植栽する（参考：付表1）	○
各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表2）			●	
化学的防除	17	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	18	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 ネギハモグリバエの土着天敵を誘引及び定着させる植栽管理のイメージ

時期	作業
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 前作終了→アブラナ科植物（シロカラシ又は菜の花）を播種 
2月	<p>ナモグリバエがアブラナ科植物で発生</p>  
3月	<p>ナモグリバエに土着の寄生蜂が寄生</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ねぎの栽培ほ場周辺にハゼリソウを播種  <p>ハゼリソウにナモグリバエ及び寄生蜂が移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アブラナ科植物すき込み   
5月	<ul style="list-style-type: none"> ● ねぎ定植  <p>ねぎでネギハモグリバエが発生すると ハゼリソウから土着の寄生蜂だけが移動してくる</p> 
7月	ハゼリソウ枯死

付表2 ネギアザミウマ及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ネギアザミウマ	アタブロン乳剤	カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、カスミカメムシ類）
	ウララDF	
	カスケード乳剤	
	コルト顆粒水和剤	
	プレオフロアブル	
	ベネビアOD	
チョウ目害虫	アタブロン乳剤	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	カスケード乳剤	
	トルネードエースDF	
	ノーモルト乳剤	
	ファルコンフロアブル	
	フェニックス顆粒水和剤	
	プレオフロアブル	
	プレバソソフロアブル	
	ベネビアOD	
	マッチ乳剤	
	マトリックフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【根深ねぎ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	○	
	7	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	○	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
11	罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●		
12	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理的防除	13	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
14	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○		
生物的防除	15	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
	16	土着天敵の保護利用	ネギハモグリバエの土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にアブラナ科又はハゼリソウ科の植物を植栽する（参考：付表1）	○	
各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表2）			●		
化学的防除	17	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	18	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●		

※●は必須項目、○は選択項目

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
18	
○の数	○の実施数
7	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【根深ねぎ】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策				
②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的 事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●
	2	侵入病害虫対策		●
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●
	4	記帳管理		●
耕種的 防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●
	6	抵抗性・耐病性 品種の利用	栽培に供した品種を記載	○
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●
			耕うんの実施の有無	●
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●
	8	排水対策の実施		●
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	○
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●
11	罹病植物体等 の除去		●	
12	残渣処理		●	
物理的 防除	13	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの 方法を記載	○
	14	気門封鎖剤の利用		○
生物的 防除	15	微生物殺虫剤 の利用	利用した資材名を記載	●
	16	土着天敵の 保護利用	利用した場合には植物名を記載	○
選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載			●	
化学的 防除	17	土壌処理剤による 予防措置		○
	18	農薬の 使用全般		●
				●
			●	

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM実践指標（こまつな〔施設〕）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	9	罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
10	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
	11	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●
物理的防除	12	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
	13	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	14	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●
	15	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○
	16	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○
	17	黄色灯の利用	ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する	☆
	18	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う	○
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	コナガ、ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する	☆
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆
	21	天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○
ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する			○	
化学的防除	22	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	23	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【こまつな〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用					
		実践項目	実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	9	罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
10	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●		
11	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理的防除	12	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
	13	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	14	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●	
	15	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○	
	16	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○	
	17	黄色灯の利用	ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する	☆	
18	蒸し込み	施設内の病虫害を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う	○		
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	コナガ、ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する	☆	
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆	
	21	天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○	
ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する			○		
化学的防除	22	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	23	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む

実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
18	
○の数	○の実施数
9	
☆の数	☆の実施数
3	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【こまつな〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策				
②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用				
実践項目		実践内容	必須/選択	実施の有無
一般的事項	1	発生予察	●	
	2	侵入病虫害対策	●	
	3	IPMの情報収集	●	
	4	記帳管理	●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	●	
	6	土壌及び施肥管理	●	
		耕うんの実施の有無	●	
		堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施	●	
	8	雑草管理	●	
	9	罹病植物体等の除去	●	
10	施設内環境の管理	●		
物理的防除	11	残渣処理	●	
	12	土壌消毒	○	
	13	気門封鎖剤の利用	○	
	14	防虫ネットの利用	●	
	15	近紫外線除去フィルムの利用	○	
	16	光反射資材の利用	○	
	17	黄色灯の利用	☆	}
	18	蒸し込み	○	
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	☆	}
	20	微生物殺虫剤の利用	☆	
	21	天敵の利用	○	
化学的防除	22	土壌処理剤による予防措置	○	
	23	農薬の使用全般	●	
				●

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（しゅんぎく [施設]）

実践のポイント			
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5 健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		十分な耕うんを行う	●
		良質な堆肥を施用する	●
	7 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	9 罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにはほ場外へ持ち出し処分する	●
10 施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
	11 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●
物理的防除	12 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
		太陽熱消毒を実施する	○
	13 気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	14 防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●
	15 近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○
16 光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○	
生物的防除	17 天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○
		ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する	○
化学的防除	18 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種または定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	19 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【しゅんぎく〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策					
②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●	
			病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種の防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	9	罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
10	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●		
	11	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的防除	12	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
	13	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	14	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●	
	15	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○	
16	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○		
生物的防除	17	天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○	
			ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する	○	
化学的防除	18	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、播種または定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	19	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●		

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
18	
○の数	○の実施数
8	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【しゅんぎく〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的 事項	1	発生予察	●	
	2	侵入病虫害対策	●	
	3	IPMの情報収集	●	
	4	記帳管理	●	
耕種的 防除	5	健全種子の使用	●	
	6	土壌及び施肥管理	●	
			●	
			●	
	7	排水対策の実施	●	
	8	雑草管理	●	
	9	罹病植物体等の除去	●	
10	施設内環境の管理	●		
物理的 防除	12	土壌消毒	○	
	13	気門封鎖剤の利用	○	
	14	防虫ネットの利用	●	
	15	近紫外線除去フィルムの利用	○	
	16	光反射資材の利用	○	
生物的 防除	17	利用した場合には資材名を記載	○	
		利用した場合には資材名を記載	○	
化学的 防除	18	土壌処理剤による予防措置	○	
	19	農薬の使用全般	●	
			●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（チンゲンサイ [施設]）

実践のポイント			
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用			
実践項目		実践内容	必須/選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5 健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		十分な耕うんを行う	●
		良質な堆肥を施用する	●
	7 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	9 罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
10 施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
	11 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●
物理的防除	12 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
		太陽熱消毒を実施する	○
	13 気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	14 防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●
	15 近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○
	16 光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○
	17 黄色灯の利用	ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する	☆
	18 蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う	○
生物的防除	19 交信かく乱剤の利用	コナガ、ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する	☆
	20 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆
	21 天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○
ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する		○	
化学的防除	22 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	23 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【チンゲンサイ〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らは場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
9	罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●		
物理的防除	10	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
	11	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
	12	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
	13	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	14	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●	
	15	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○	
	16	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○	
17	黄色灯の利用	ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する	☆		
生物的防除	18	蒸し込み	施設内の病虫害を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う	○	
	19	交信かく乱剤の利用	コナガ、ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する	☆	
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆	
21	天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○		
		ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する	○		
化学的防除	22	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	23	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
 ☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する
 申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
 実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
18	
○の数	○の実施数
9	
☆の数	☆の実施数
3	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【チンゲンサイ〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施		●	
	8	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	9	罹病植物体等の除去		●	
10	施設内環境の管理		●		
物理的防除	11	残渣処理		●	
	12	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	13	気門封鎖剤の利用		○	
	14	防虫ネットの利用		●	
	15	近紫外線除去フィルムの利用		○	
	16	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	17	黄色灯の利用		☆	}
	18	蒸し込み		○	
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	}
	20	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	
	21	天敵の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
利用した場合には資材名を記載			○		
化学的防除	22	土壌処理剤による予防措置		○	
	23	農薬の使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目
☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（ほうれんそう [施設]）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用				
実践項目		実践内容	必須/選択	
一般的事項	1	発生予察	●	
		自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	べと病及び萎凋病に対して、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	●
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	10	罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
11	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
12	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的防除	13	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
	14	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	15	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●
	16	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○
	18	黄色灯の利用	ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する	☆
19	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う	○	
生物的防除	20	交信かく乱剤の利用	ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する	☆
	21	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆
	22	天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○
ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する			○	
ホウレンソウケナガコナダニに対して、ククメリスカブリダニを利用する			○	
化学的防除	23	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	24	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目18、20及び21の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ほうれんそう【施設】】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●	
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●		
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●		
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●	
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	べと病及び萎凋病に対して、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	●	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	10	罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
11	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●		
12	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理的防除	13	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
	14	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	15	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●	
	16	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○	
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○	
	18	黄色灯の利用	ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する	☆	
19	蒸し込み	施設内の病虫害を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う	○		
生物的防除	20	交信かく乱剤の利用	ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する	☆	
	21	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆	
	22	天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○	
ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する			○		
		ホウレンソウケナガコナダニに対して、ククメリスカブリダニを利用する	○		
化学的防除	23	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	24	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●		

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目18、20及び21の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
19	
○の数	○の実施数
10	
☆の数	☆の実施数
3	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ほうれんそう [施設]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用					
実践項目		実践内容	必須/選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策	/	●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理	/	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	栽培に供した品種を記載	●	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
	8	排水対策の実施	/	●	
	9	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	10	罹病植物体等の除去	/	●	
	11	施設内環境の管理	/	●	
12	残渣処理	/	●		
物理的防除	13	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	14	気門封鎖剤の利用	/	○	
	15	防虫ネットの利用	/	●	
	16	近紫外線除去フィルムの利用	/	○	
	17	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	18	黄色灯の利用	/	☆	
	19	蒸し込み	/	○	
生物的防除	20	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	
	21	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	
	22	天敵の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
			利用した場合には資材名を記載	○	
23	土壌処理剤による予防措置	/	○		
		/	○		
化学的防除	24	農薬の使用全般	/	●	
			/	●	

※●は必須項目、○は選択項目
 ☆は実践項目18、20及び21の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（みずな [施設]）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	9	罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●
10	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
11	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的防除	12	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
	13	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	14	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために防虫ネットを設置する	●
	15	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○
	16	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○
	17	黄色灯の利用	ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する	☆
18	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う	○	
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	コナガ、ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する	☆
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆
	21	天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○
化学的防除	22	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種または定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	23	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【みずな〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用					
実践項目		実践内容	必須/選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生動向を把握する 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	9	罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
10	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●		
11	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理的防除	12	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
	13	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	14	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために防虫ネットを設置する	●	
	15	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○	
	16	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○	
	17	黄色灯の利用	ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する	☆	
18	蒸し込み	施設内の病虫害を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う	○		
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	コナガ、ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する	☆	
	20	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆	
	21	天敵の利用	アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○	
化学的防除	22	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、播種または定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	23	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
 ☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する
 申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
 実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
18	
○の数	○の実施数
8	
☆の数	☆の実施数
3	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【みずな〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施		●	
	8	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	9	罹病植物体等の除去		●	
10	施設内環境の管理		●		
11	残渣処理		●		
物理的防除	12	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	13	気門封鎖剤の利用		○	
	14	防虫ネットの利用		●	
	15	近紫外線除去フィルムの利用		○	
	16	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	17	黄色灯の利用		☆	
	18	蒸し込み		○	
生物的防除	19	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	
	20	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	
	21	天敵の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
化学的防除	22	土壌処理剤による予防措置		○	
	23	農薬の使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目
 ☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（葉ねぎ〔施設〕）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的 事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的 防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
9	罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
	10	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●
物理的 防除	11	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
	12	気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	13	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●
	14	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○
	15	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○
	16	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う	●
生物的 防除	17	交信かく乱剤の利用	チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する	☆
	18	微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○
チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる			☆	
化学的 防除	19	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	20	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17又は18（BT剤）の生物的防除のいずれかを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【葉ねぎ [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する	●	
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全種子の使用	健全種子を用いる	●	
	6 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		十分な耕うんを行う	●	
		良質な堆肥を施用する	●	
	7 排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
9 罹病植物体等の除去	発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●		
	10 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的防除	11 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
	12 気門封鎖剤の利用	アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	13 防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●	
	14 近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	○	
	15 光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する	○	
	16 蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う	●	
生物的防除	17 交信かく乱剤の利用	チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する	☆	
	18 微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○	
		チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆	
化学的防除	19 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	20 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17又は18（BT剤）の生物的防除のいずれかを必ず実施する
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
18	
○の数	○の実施数
7	
☆の数	☆の実施数
2	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【葉ねぎ [施設]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1	発生予察 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策	●	
	3	IPMの情報収集 参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
		耕うんの実施の有無	●	
	7	排水対策の実施 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	8	雑草管理 カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載	●	
	9	罹病植物体等の除去	●	
	10	残渣処理	●	
物理的防除	11	土壌消毒 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	12	気門封鎖剤の利用	○	
	13	防虫ネットの利用	●	
	14	近紫外線除去フィルムの利用	○	
	15	光反射資材の利用 利用した場合には資材名を記載	○	
	16	蒸し込み	●	
生物的防除	17	交信かく乱剤の利用 利用した場合には資材名を記載	☆	}
	18	微生物殺虫剤の利用 利用した場合には資材名を記載	○	
		利用した場合には資材名を記載	☆	
化学的防除	19	土壌処理剤による予防措置	○	
	20	農薬の使用全般	●	
				●

※●は必須項目、○は選択項目
☆は実践項目17又は18（B T剤）の生物的防除のいずれかを必ず実施する
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（キャベツ）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須/選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する	●
		病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病虫害対策	新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	○
	7	土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	8	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
11	罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
12	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む（参考：p97）	●	
物理的防除	13	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
生物的防除	14	交信かく乱剤の利用	チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する	☆
	15	微生物殺菌剤の利用	軟腐病、黒腐病、菌核病等に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する	○
	16	微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤等の利用を取り入れる	☆
	17	土着天敵の保護利用	アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●
アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する			○	
化学的防除	18	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	19	農薬の使用全般	病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する

付表1 アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ア ブ ラ ム シ 類	ウララDF	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等）
	コルト 顆粒水和剤	
	ベネビアOD	
チ ョ ウ 目 害 虫	アクセルフロアブル	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチプトカメムシ類） クモ類
	アタブロン乳剤	
	カウンター乳剤	
	カスケード乳剤	
	トルネードエースDF	
	ノーモルト乳剤	
	ファルコンフロアブル	
	フェニックス顆粒水和剤	
	プレオフロアブル	
	プレバソンフロアブル	
	ベネビアOD	
	マッチ乳剤	
	マトリックフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【キャベツ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目	実践内容	必須／選択	必須／選択	
一般的事項	1 発生予察	自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6 抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	○	
	7 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		十分な耕うんを行う	●	
		良質な堆肥を施用する	●	
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9 輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●	
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
11 罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●		
12 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む（参考：p97）	●		
物理的防除	13 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
生物的防除	14 交信かく乱剤の利用	チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する	☆	
	15 微生物殺菌剤の利用	軟腐病、黒腐病、菌核病等に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する	○	
	16 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤等の利用を取り入れる	☆	
	17 土着天敵の保護利用	アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する		○		
化学的防除	18 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	19 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを困む

実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
18	
○の数	○の実施数
6	
☆の数	☆の実施数
2	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【キャベツ】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	抵抗性・耐病性品種の利用	栽培に供した品種を記載	○	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
	8	排水対策の実施		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去		●	
12	残渣処理		●		
物理的防除	13	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
生物的防除	14	交信かく乱剤の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	}
	15	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	16	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	
	17	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
利用した場合には植物名を記載			○		
化学的防除	18	土壌処理剤による予防措置		○	
	19	農薬の使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目
 ☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（はくさい）

実践のポイント			
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策			
②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用			
実践項目		実践内容	必須/選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6 抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	○
	7 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		十分な耕うんを行う	●
		良質な堆肥を施用する	●
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9 輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
11 罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
12 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む（参考：p97）	●	
物理的防除	13 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
		太陽熱消毒を実施する	○
生物的防除	14 交信かく乱剤の利用	チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する	☆
	15 微生物殺菌剤の利用	軟腐病、黒腐病、菌核病等に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する	○
	16 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆
	17 土着天敵の保護利用	アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●
アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する		○	
化学的防除	18 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	19 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する

付表1 アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ア ブ ラ ム シ 類	ウララDF	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類, タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等)
	コルト顆粒水和剤	
	ベネビアOD	
チ ョ ウ 目 害 虫	アクセルフロアブル	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類
	カスケード乳剤	
	トルネードエースDF	
	ノーモルト乳剤	
	フェニックス顆粒水和剤	
	プレオフロアブル	
	プレバソンフロアブル	
	ベネビアOD	
	マッチ乳剤	
	マトリックフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【はくさい】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1 発生予察	自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6 抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	○	
	7 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		十分な耕うんを行う	●	
		良質な堆肥を施用する	●	
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9 輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●	
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
11 罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●		
12 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む（参考：p97）	●		
物理的防除	13 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
生物的防除	14 交信かく乱剤の利用	チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する	☆	
	15 微生物殺菌剤の利用	軟腐病、黒腐病、菌核病等に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する	○	
	16 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆	
	17 土着天敵の保護利用	アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する		○		
化学的防除	18 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	19 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを困む

実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
18	
○の数	○の実施数
6	
☆の数	☆の実施数
2	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【はくさい】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的 事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的 防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	抵抗性・耐病性 品種の利用	栽培に供した品種を記載	○	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
	8	排水対策の実施		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等 の除去		●	
12	残渣処理		●		
物理的 防除	13	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの 方法を記載	○	
生物的 防除	14	交信かく乱剤 の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	
	15	微生物殺菌剤 の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	16	微生物殺虫剤 の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	
	17	土着天敵の 保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
利用した場合には植物名を記載			○		
化学的 防除	18	土壌処理剤による 予防措置		○	
	19	農薬の 使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目

☆：下記の14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（ブロッコリー）

実践のポイント			
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用			
実践項目		実践内容	必須/選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●
	6 抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	○
	7 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		十分な耕うんを行う	●
		良質な堆肥を施用する	●
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	9 輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
11 罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●	
12 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む（参考：p97）	●	
物理的防除	13 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
		太陽熱消毒を実施する	○
生物的防除	14 交信かく乱剤の利用	チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する	☆
	15 微生物殺菌剤の利用	軟腐病、黒腐病、菌核病等に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する	○
	16 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆
	17 土着天敵の保護利用	アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●
アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する		○	
化学的防除	18 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	19 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する

付表1 アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ア ブ ラ ム シ 類	ウララDF	寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類, タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等)
	コルト顆粒水和剤	
	ベネビアOD	
チ ョ ウ 目 害 虫	アクセルフロアブル	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類
	アタブロン乳剤	
	カウンター乳剤	
	カスケード乳剤	
	トルネードエースDF	
	ノーモルト乳剤	
	ファルコンフロアブル	
	フェニックス顆粒水和剤	
	プレオフロアブル	
	プレバソソフロアブル	
	ベネビアOD	
	マッチ乳剤	
マトリックフロアブル		

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ブロッコリー】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的 事項	1 発生予察	自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的 防除	5 健全種苗の使用	健全種苗を用いる	●	
	6 抵抗性・耐病性品種の利用	病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する	○	
	7 土壌及び施肥管理	土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		十分な耕うんを行う	●	
		良質な堆肥を施用する	●	
	8 排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	9 輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●	
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
11 罹病植物体等の除去	発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する	●		
12 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む（参考：p97）	●		
物理的 防除	13 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
生物的 防除	14 交信かく乱剤の利用	チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する	☆	
	15 微生物殺菌剤の利用	軟腐病、黒腐病、菌核病等に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する	○	
	16 微生物殺虫剤の利用	チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	☆	
	17 土着天敵の保護利用	アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する		○		
化学的 防除	18 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	19 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを困む

実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
18	
○の数	○の実施数
6	
☆の数	☆の実施数
2	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ブロッコリー】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的 事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的 防除	5	健全種苗の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	抵抗性・耐病性 品種の利用	栽培に供した品種を記載	○	
	7	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
	8	排水対策の実施		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等 の除去		●	
12	残渣処理		●		
物理的 防除	13	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの 方法を記載	○	
生物的 防除	14	交信かく乱剤 の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	
	15	微生物殺菌剤 の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	16	微生物殺虫剤 の利用	利用した場合には資材名を記載	☆	
	17	土着天敵の 保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
利用した場合には植物名を記載			○		
化学的 防除	18	土壌処理剤による 予防措置		○	
	19	農薬の 使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（さやいんげん [施設]）

実践のポイント			
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②コナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用			
実践項目		実践内容	必須/選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5 健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		十分な耕うんを行う	●
		良質な堆肥を施用する	●
	7 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	9 罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
	10 施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●
11 マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
	12 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる	●
物理的防除	13 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
		太陽熱消毒を実施する	○
	14 気門封鎖剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○
	15 防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●
	16 近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	☆
	17 光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○
	18 蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う	●
生物的防除	19 微生物殺菌剤の利用	灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する	○
	20 微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○
		チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○
	21 天敵の利用	コナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する	☆
		アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○
ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する		○	
		ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する	○
化学的防除	22 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	23 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残渣やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目16の物理的防除又は21（スワルスキーカブリダニ）の生物的防除のいずれかを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（さやいんげん [施設]）（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策					
②コナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用					
		実践項目	実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
			IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	9	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	10	施設内環境の管理	施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ	●	
11	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●		
12	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる	●		
物理的防除	13	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
	14	気門封鎖剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
	15	防虫ネットの利用	害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する	●	
	16	近紫外線除去フィルムの利用	害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する	☆	┌
	17	光反射資材の利用	害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する	○	
18	蒸し込み	施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う	●		
生物的防除	19	微生物殺菌剤の利用	灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する	○	
	20	微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ホーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する	○	
			チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	○	
	21	天敵の利用	コナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する	☆	┌
			アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する	○	
ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する			○		
22	土壌処理剤による予防措置	農業飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○		
23	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●		
		農薬の飛散防止対策に努める	●		
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●		

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目16の物理的防除又は21（スワルスキーカブリダニ）の生物的防除のいずれかを必ず実施する
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
20	
○の数	○の実施数
11	
☆の数	☆の実施数
2	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM実践指標（さやいんげん [施設]）（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策				
②コナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用				
実践項目		実践内容	必須/選択	実施の有無
一般的 事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●
	2	侵入病害虫対策		●
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●
	4	記帳管理		●
耕種的 防除	5	健全種子の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断は場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●
			耕うんの実施の有無	●
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●
	7	排水対策の実施		●
	8	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合には草種を記載	●
	9	罹病植物体等の除去		●
	10	施設内環境の管理		●
11	マルチの利用		●	
12	残渣処理		●	
物理的 防除	13	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○
	14	気門封鎖剤の利用		○
	15	防虫ネットの利用		●
	16	近紫外線除去 フィルムの利用		☆
	17	光反射資材の利用	利用した場合には資材名を記載	○
	18	蒸し込み		●
生物的 防除	19	微生物殺菌剤 の利用	利用した場合には資材名を記載	○
	20	微生物殺虫剤 の利用	利用した場合には資材名を記載	○
			利用した場合には資材名を記載	○
	21	天敵の利用	利用した場合には資材名を記載	☆
			利用した場合には資材名を記載	○
利用した場合には資材名を記載			○	
21	天敵の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
		利用した場合には資材名を記載	○	
		利用した場合には資材名を記載	○	
化学的 防除	22	土壌処理剤による 予防措置		○
	23	農薬の 使用全般		●
			●	

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目16の物理的防除又は21（スワルスキーカブリダニ）の生物的防除のいずれかを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（さやいんげん [露地]）

実践のポイント			
①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用			
実践項目		実践内容	必須/選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		十分な耕うんを行う	●
		良質な堆肥を施用する	●
	7 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8 防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	9 輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11 罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
12 マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●	
13 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む	●	
物理的防除	14 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
		太陽熱消毒を実施する	○
15 気門封鎖剤の利用	コナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○	
生物的防除	16 微生物殺虫剤の利用	コナジラミ類等に対して、ボーベリア剤を利用する	○
		チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
17 土着天敵の保護利用	ハモグリバエ類及びハダニ類等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
	アブラムシ類等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴーを植栽する（※実践項目8でソルゴーを用いる場合には条件を満たす）	○	
化学的防除	18 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	19 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 ハモグリバエ類、ハダニ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ハモグリバエ類	カスケード乳剤	寄生蜂 クモ類
	プレオフロアブル	
	プレバソンフロアブル	
ハダニ類	コロマイト乳剤	カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アマガサアザミウマ等）
	ダニトロンフロアブル	
	ニッソラン水和剤	
チョウ目害虫	フェニックス顆粒水和剤	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	プレオフロアブル	
	プレバソンフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【さやいんげん [露地]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須/選択	実施の有無
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●		
耕種的防除	5 健全種子の使用	健全種子を用いる	●	
	6 土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		十分な耕うんを行う	●	
		良質な堆肥を施用する	●	
	7 排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8 防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	9 輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●	
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11 罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
12 マルチの利用	肥料と土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する	●		
13 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む	●		
物理的防除	14 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
15 気門封鎖剤の利用	コナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する	○		
生物的防除	16 微生物殺虫剤の利用	コナジラミ類に対して、ボーベリア剤を利用する	○	
		チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
17 土着天敵の保護利用	ハモグリバエ類及びハダニ類等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●		
	アブラムシ類等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴーを植栽する（※実践項目8でソルゴーを用いる場合には条件を満たす）	○		
化学的防除	18 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	19 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
6	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【さやいんげん [露地]】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害及び線虫に対する、耕種の防除を中心とした対策					
②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施		●	
	8	防風対策		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去		●	
12	マルチの利用		●		
物理的防除	13	残渣処理		●	
	14	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	15	気門封鎖剤の利用		○	
	16	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
			利用した資材名を記載	●	
17	土着天敵の保護利用	選択的農業以外を使用した場合には、農業名とそれを使用した理由を記載	●		
		利用した場合には植物名を記載	○		
化学的防除	18	土壌処理剤による予防措置		○	
	19	農薬の使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（そらまめ）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類等に対する、光反射マルチの利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	<p>自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する</p> <p>病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する</p>	●
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する	●
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（※実践項目15の実施で条件を満たす）	●	
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的防除	14	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
15	光反射資材の利用	9月までに播種する作型については、アザミウマ類等の侵入を防ぐために、光反射マルチを利用する	●	
生物的防除	16	アザミウマ類に対して、ボーベリア剤を利用する	○	
		チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
17	土着天敵の保護利用	ハモグリハエ類及びチョウ目に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●	
		アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす）	○	
化学的防除	18	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	19	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 ハモグリバエ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ハモグリバエ類	カスケード乳剤	寄生蜂 クモ類
	プレオフロアブル	
	プレバソンフロアブル	
チョウ目害虫	フェニックス顆粒水和剤	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類
	プレオフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【そらまめ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類等に対する、光反射マルチの利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8	防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する	●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（※実践項目15の実施で条件を満たす）	●		
	13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は腐熟させる	●	
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
	15	光反射資材の利用	9月までに播種する作型については、アザミウマ類等の侵入を防ぐために、光反射マルチを利用する	●	
生物的防除	16	微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類に対して、ボーベリア剤を利用する	○	
			チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
	17	土着天敵の保護利用	ハモグリバエ類及びチョウ目に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす）			○		
化学的防除	18	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	19	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
農薬の飛散防止対策に努める			●		
散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする			●		

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
22	
○の数	○の実施数
5	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【そらまめ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②アザミウマ類等に対する、光反射マルチの利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種の防除	5	健全種子の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施		●	
	8	防風対策		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載	●	
11	罹病植物体等の除去		●		
12	マルチの利用		●		
13	残渣処理		●		
物理的防除	14	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	15	光反射資材の利用		●	
生物的防除	16	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
		利用した資材名を記載	●		
	17	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●	
利用した場合には植物名を記載			○		
化学的防除	18	土壌処理剤による予防措置		○	
	19	農薬の使用全般		●	
				●	

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（実えんどう）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
			十分な耕うんを行う	●
			良質な堆肥を施用する	●
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8	防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する（平張施設は当該条件を満たす）	●
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（※実践項目15の実施で条件を満たす）	●	
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む	●	
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
			太陽熱消毒を実施する	○
15	光反射資材の利用	アザミウマ類等の侵入を防ぐために、光反射マルチを利用する	○	
生物的防除	16	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病、灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する	○
	17	微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類に対して、ボーベリア剤を利用する	○
			チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
18	土着天敵の保護利用	ハモグリバエ類及びチョウ目害虫等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1）	●	
		アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす）	○	
化学的防除	19	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	20	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
			農薬の飛散防止対策に努める	●
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 ハモグリバエ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
ハモグリバエ類	プレオフロアブル	寄生蜂 クモ類
	プレバソンフロアブル	
チョウ目害虫	カスケード乳剤	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	フェニックス顆粒水和剤	
	プレオフロアブル	
	プレバソンフロアブル	
	マトリックフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【実えんどう】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
			病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2	侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3	IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
	4	記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	健全種子を用いる	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
			十分な耕うんを行う	●	
			良質な堆肥を施用する	●	
	7	排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8	防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する（平張施設は当該条件を満たす）	●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●	
	10	雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11	罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
12	マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（※実践項目15の実施で条件を満たす）	●		
13	残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む	●		
物理的防除	14	土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
			太陽熱消毒を実施する	○	
15	光反射資材の利用	アザミウマ類等の侵入を防ぐために、光反射マルチを利用する	○		
生物的防除	16	微生物殺菌剤の利用	うどんこ病、灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する	○	
	17	微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類に対して、ポーベリア剤を利用する	○	
			チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
18	土着天敵の保護利用	ハモグリバエ類及びチョウ目害虫等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす）	●		
化学的防除	19	土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	20	農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
			農薬の飛散防止対策に努める	●	
			散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
21	
○の数	○の実施数
7	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【実えんどう】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント					
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用					
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無	
一般的事項	1	発生予察	実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策		●	
	3	IPMの情報収集	参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理		●	
耕種的防除	5	健全種子の使用	種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理	土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無	●	
			耕うんの実施の有無	●	
			堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施		●	
	8	防風対策		●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用	輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理	カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去		●	
12	マルチの利用		●		
物理的防除	13	残渣処理		●	
	14	土壌消毒	土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
生物的防除	15	光反射資材の利用		○	
	16	微生物殺菌剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
	17	微生物殺虫剤の利用	利用した場合には資材名を記載	○	
			利用した資材名を記載	●	
18	土着天敵の保護利用	選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載	●		
		利用した場合には植物名を記載	○		
化学的防除	19	土壌処理剤による予防措置		○	
	20	農薬の使用全般		●	
				●	
			●		

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（スナップえんどう）

実践のポイント			
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類等に対する、光反射マルチの利用			
実践項目		実践内容	必須／選択
一般的事項	1 発生予察	自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●	
耕種的防除	5 健全種子の使用	健全種子を用いる	●
	6 土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●
		十分な耕うんを行う	●
		良質な堆肥を施用する	●
	7 排水対策の実施	排水対策を実施する	●
	8 防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する（※平張施設は当該条件を満たす）	●
	9 輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●
	11 罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●
	12 マルチの利用	肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（※実践項目15の実施で条件を満たす）	●
13 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む	●	
物理的防除	14 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○
		太陽熱消毒を実施する	○
15 光反射資材の利用	9月までに播種する作型については、アザミウマ類等の侵入を防ぐために、光反射マルチを利用する	●	
生物的防除	16 微生物殺菌剤の利用	うどんこ病、灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する	○
	17 微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類に対して、ポーベリア剤を利用する	○
		チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●
18 土着天敵の保護利用	チョウ目害虫等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1）	●	
	アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす）	○	
化学的防除	19 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○
	20 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●
		農薬の飛散防止対策に努める	●
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 チョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

害虫種	農薬名	保全の対象とする土着天敵
チョウ目害虫	アタブロン乳剤	寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類
	カスケード乳剤	
	ノーモルト乳剤	
	フェニックス顆粒水和剤	
	プレオフロアブル	
	プレバソンフロアブル	
	マトリックフロアブル	

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【スナップえんどう】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類等に対する、光反射マルチの利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1 発生予察	自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する	●	
		病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する	●	
	2 侵入病害虫対策	新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める	●	
	3 IPMの情報収集	IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める	●	
4 記帳管理	各農作業の実施日及び作業内容等を記録する	●		
耕種的防除	5 健全種子の使用	健全種子を用いる	●	
	6 土壌及び施肥管理	土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する	●	
		十分な耕うんを行う	●	
		良質な堆肥を施用する	●	
	7 排水対策の実施	排水対策を実施する	●	
	8 防風対策	障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する （※平張施設は当該条件を満たす）	●	
	9 輪作の実施 緑肥作物の利用	土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する	●	
	10 雑草管理	ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する	●	
	11 罹病植物体等の除去	発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する	●	
	12 マルチの利用	肥料と作土の流出防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する （※実践項目15の実施で条件を満たす）	●	
13 残渣処理	栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む	●		
物理的防除	14 土壌消毒	有機物を利用した土壌還元消毒を実施する	○	
		太陽熱消毒を実施する	○	
15 光反射資材の利用	9月までに播種する作型については、アザミウマ類等の侵入を防ぐために、光反射マルチを利用する	●		
生物的防除	16 微生物殺菌剤の利用	うどんこ病、灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する	○	
	17 微生物殺虫剤の利用	アザミウマ類に対して、ポーベリア剤を利用する	○	
		チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる	●	
18 土着天敵の保護利用	チョウ目害虫等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる （参考；付表1）	●		
	アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する （※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす）	○		
化学的防除	19 土壌処理剤による予防措置	農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する	○	
	20 農薬の使用全般	病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける	●	
		農薬の飛散防止対策に努める	●	
		散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする	●	

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

●の数	●の実施数
22	
○の数	○の実施数
6	

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【スナップえんどう】（農業者用自主点検シート）

実践のポイント				
①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類等に対する、光反射マルチの利用				
実践項目		実践内容	必須／選択	実施の有無
一般的事項	1	発生予察 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載	●	
	2	侵入病害虫対策	●	
	3	IPMの情報収集 参加した研修会や講習会と参加日を記載	●	
	4	記帳管理	●	
耕種的防除	5	健全種子の使用 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載	●	
	6	土壌及び施肥管理 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 耕うんの実施の有無	●	
		堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載	●	
	7	排水対策の実施	●	
	8	防風対策	●	
	9	輪作の実施 緑肥作物の利用 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載	●	
	10	雑草管理 カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載	●	
	11	罹病植物体等の除去	●	
	12	マルチの利用	●	
13	残渣処理	●		
物理的防除	14	土壌消毒 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載	○	
	15	光反射資材の利用	●	
生物的防除	16	微生物殺菌剤の利用 利用した場合には資材名を記載	○	
	17	微生物殺虫剤の利用 利用した場合には資材名を記載	○	
		利用した資材名を記載	●	
18	土着天敵の保護利用 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 利用した場合には植物名を記載	●		
化学的防除	19	土壌処理剤による予防措置	○	
	20	農薬の使用全般	●	
				●

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する